

**令和7年度 全国学力・学習状況調査**  
**教科に関する調査結果及び考察について**

保護者の皆様へ

白河市立白河第五小学校長

令和7年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語、算数、理科の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

**【本校と全国の平均正答率比較】**

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	66.8%	○				
算数	58.0%	○				
理科	57.1%	○				

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	76.9%					○
情報の扱い方に関する事項	63.1%	○				
我が国の言語文化に関する事項	81.2%					○
話すこと・聞くこと	66.3%	○				
書くこと	69.5%	○				
読むこと	57.5%	○				

【考 察】

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、高い正答率となりました。毎日の授業や家庭学習において、学習した漢字や言葉を積極的に使いながら文章を丁寧に書くことを続けた結果、漢字や言葉を正しく使う力が向上しました。
- 「読むこと」の領域では、叙述をもとに文章全体の構成を捉えて要旨を把握することや、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける問題の正答率が全国平均を下回りました。日々の授業において、文章全体をみて捉える力を伸ばしたり、情報を整理して必要な事柄を選ぶ力を高めるために、他教科においても資料を活用して読解力をつける学習を積み重ねていきます。

【算数：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	62.3%	○				
図 形	56.2%		○			
測 定	54.8%	○				
変化と関係	57.5%	○				
データの活用	62.6%	○				

【考 察】

- 「数と計算」の領域では、分母が違う分数のたし算について、共通する分数を単位にして考えると、整数のたし算と同じように計算できることを説明する問題の正答率が全国平均を下回りました。今後は、自分の考えを書いたり、考えを分かりやすく説明したりする活動を十分に取り入れ、既習の内容を生かして論理的に考え自分の言葉で説明できる力の育成を図っていきます。
- 「測定」の領域では、問題を解決するために必要な事柄を選択し、その求め方を

式や言葉を使って書く問題の正答率が全国平均を下回りました。全体的に記述式の問題において正答率がかなり下がる傾向にあるので、答えを導き出すまでの考え方を説明する活動を大切にし、表現力を高められるようにしていきます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
エネルギー	46.7%	○				
粒 子	51.4%		○			
生 命	52.0%		○			
地 球	66.7%			○		

【考 察】

- 「エネルギー」の領域では、かね（ベル）が鳴るようにするための回路を選ぶ問題が全国平均を下回りました。電気が流れる回路の作り方について実験方法を確認し、電流が流れるということはどういうことかについて改めて指導することで、理解を深められるようにします。
- 「生命」の領域では、レタスの種子の発芽の条件について、これまでの実験と異なる点や共通点をもとに、新たな問題を見だし、文章で表現する問題が全国平均をやや下回りました。観察や実験の結果を検証し、具体的な条件に着目した場面を設定することで、考察力を高められるようにしていきます。